

ろぐ「児童発達支援」 支援内容

児童発達支援事業所の重要（必要）性

- *ライフステージに応じた切れ目のない支援（縦の支援）
- *保健、医療、福祉、教育、就労支援とも連携した地域支援体制の確立（横の支援）
 - 保健所や保育園等で指摘され「気づく」乳幼児期の支援
 - 就学までの支援
 - 学齢期の支援
 - 就労支援等と連携した学校卒業後を見据えた支援



縦横連携によるライフステージごとの個別支援の充実

特に…

- 保護者との連携

「通常学級に入れたい」「無理のないように子どものペースで成長してほしい」など、当然のことながら保護者一人ひとりのニーズや教育方針、家庭環境が違い、子どもだけではなく、保護者との関わりも重要となる。事業所を利用することをゴールとし、事業所に任せきり、預けるだけの保護者、反対に、自宅でも同じような支援の仕方ができるよう見学をし、熱心にメモをとる保護者など様々な保護者の姿が見られる。どの分野でも必ず課題となる、家庭との連携が支援の上で重要なポイントとなってくると思われる。保護者が安心して任せられ、且つ、保護者も一緒に成長を感じられる支援を行うことが、事業所（指導員）と保護者がよりよい関係を築くことにつながり、子どもに最善の環境・支援を与えることができると思う。

これまでの経験に基づく取り組みと結果

*就学に向けての学習支援

- 多種のカードや数、形を使ったビジョントレーニング
- 指示内容を聞き取り、行動に移す等の聞き取る力をつけるトレーニング
- 簡単な線引きから平仮名への移行。名詞や対義語の取得
- 数を数えることから大小・数量の理解
- 発表の仕方、指示されたページを開く等、就学後、必要な動きの習得



- 自信を持って就学できる幼児、安心感を持ち就学準備ができる保護者が増えた
- 就学先との連携の際に、情報提供書を作成し、基本的な生活習慣だけでなく、学習面での幼児の現状や、習得しやすいパターン等を伝えることで、知的の面で支援の必要な幼児がスムーズに就学することができた。

*集団生活（幼稚園・保育園）との連携

- 幼稚園、保育園と密な連携を図れるような関係をつくり、子ども一人ひとりの現状把握と支援内容を考える



- 集団生活で苦手な活動、作業を具体的に把握することで、事業所利用の際に集団生活の中では習得しきれない分野を細かく指導し、園生活での困る事やできない事を軽減できた。

具体的療育内容

* 6歳までの未就学児を対象に就学に向け（就学する上で）必要な療育を主に個別で行う。

状況に応じて小集団を行う場合もあります。（ルール遊び、リトミックなど）

* 個々の障害や発達の程度に合わせたプログラムとなり、様々な教材等を用いて症状の改善や幼稚園・保育園での生活に順応できるよう、また、社会的技術も身につけていけるようなお手伝い（支援、療育）をする。

* 2歳まで（低年齢児）の受け入れは、個々の状態をしっかりと見立て、保護者と相談の上、療育内容を決めていく。状況・状態に応じた個別での支援や、保護者支援も兼ねた親子での療育（リトミックやムーブメント）を行う。

幼稚園・保育園にあわせた子どもの発達と療育内容（2歳～6歳）

年齢	心身と運動機能の発達 ～ようになる	遊びの展開と環境作り 教師の心がけ	言葉と人間関係	園生活と基本的な生活習慣 園と家庭との連携
年少々（2～満3歳） 一人遊びが多い 友達と上手に遊べない	<ul style="list-style-type: none"> 全身を使って走れる 片足立ちやジャンプができる。 意図をもって絵を描く 自律心が芽生え始める 特定の対象に極端な恐怖感を持つ 	<ul style="list-style-type: none"> 発想を膨らませた見立て遊びができる環境作り 興味のもちそうな物を確認するために様々な物を与えてみる 	<ul style="list-style-type: none"> 多語文、従属文を話す 「何で?」「どうして?」の質問期の増加 自己主張のぶつかり合いが増える 気の合う友達と関わる 	<ul style="list-style-type: none"> お箸の持ち方 一人で着替える おむつを外す
療育内容				
<ul style="list-style-type: none"> 絵合わせカード（言葉、物の名前） 簡単ななぞなぞ（言葉） ブロック（手先、見立て） クレヨン使用（指先、書き物への導入） のりを使う（のりへの導入） 平均台にのぼる（運動） しっぽとり（運動、簡単なルール） 四つ這い運動（運動） 洋服の着脱～たたむ（基本的な生活習慣） 				
年少（3～4歳） * 保育者が引っ張る年齢	<ul style="list-style-type: none"> 運動能力や平衡感覚が発達 つま先歩き、かかと歩きができるようになる ケンケンや急な方向転換ができる 三輪車をこげる 物事の予測を立てられる 自分でやり通そうとする 絵本のストーリーがわかる 指先が発達して道具も上手に使える 	<ul style="list-style-type: none"> 勝ち負けよりもプロセスの大切さに気付けるようになる 得意なことを教え合い、喜びを共有できるように 自然への興味を高める 	<ul style="list-style-type: none"> 一人称を使う 行動の正当化が始まる 現在、過去、未来が区別でき、抽象語が理解できる 物や人に対して「好き」「嫌い」がでてくる 並行遊びを行う コミュニケーションの方法を身につけていく 「ごっこ遊び」が活発に展開→人の役割に興味関心をもつ 	<ul style="list-style-type: none"> 食事、排泄、着替えが自分でできる 好き嫌いをなくしていく * 着替えは立ったままできるように 数の体験をする
療育内容				

<ul style="list-style-type: none"> ・しりとり（言葉） ・折り紙（手先） ・じゃんけん（手先・簡単なルール） ・はさみ（手先） ・絵画、工作（見立て、手先） ・ボール転がし（運動） ・平均台をわたる（運動） ・リトミック（聴覚、リズム、数、ルール） ・クレヨン～ペン（指先、視覚、色覚）

年齢	心身と運動機能の発達 ～ようになる	遊びの展開と環境作り 教師の心がけ	言葉と人間関係	園生活と基本的な生活習慣 園と家庭との連携
年中（4～5歳） *保育者が後押しする 年齢	<ul style="list-style-type: none"> ・目標に向かい、全力疾走ができる ・ボール遊びなどチーム遊びを楽しめる ・細かい作業を納得するまでやり抜く ・予測しながら自分で行動する ・約束の意味がわかる ・年下や弱い子等を気づかうようになる ・思考力が高まり、自分の判断で行動する 	<ul style="list-style-type: none"> ・文字に対する興味を自然と広げられるように援助する ・図鑑などを身近におく ・苦手なことも挑戦し、自信や信頼関係を深める 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思っていることを言葉で表現できる（幼児語を使わなくなる） ・相手の話を聞いて内容を理解する ・批判する力も芽生える ・語い数が増え、助詞が正しく使える 	<ul style="list-style-type: none"> ・当番活動や係活動もできるようになる ・食事のマナーを身につける ・健康管理の基本を身につける ・自分の持ち物を自分で管理する

療育内容 <ul style="list-style-type: none"> ・ことば集め（言葉） ・すごろく（数、ルール） ・ペープサート（言葉、表現） ・廃材製作（指手先、想像力） ・鬼ごっこ（ルール、仲間） ・なわとび（運動） ・マット運動（運動） ・ボール投げ（運動） ・リトミック（聴力、判断力、音感、数）

年長（5～6歳） *保育者は信じて見守る年齢	<ul style="list-style-type: none"> ・高度な全身運動ができる ・人物は細部まで描ける ・文字や数に興味関心をもつ 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びの中で読み書きの基礎をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉を文字で表すことに興味をもつ ・相手に応じて言葉を使い分ける ・ストーリー性が高い絵本を楽しむ（物語の展開を楽しめる） ・主体性や社会性が育つ ・仲間意識がはっきりする 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣を自発的にできる ・社会的ルールを理解する
----------------------------------	--	---	---	---

療育内容 <ul style="list-style-type: none"> ・手紙ごっこ（文字、言葉） ・トランプ（数、ルール、仲間） ・かるた（文字、言葉、ルール、仲間） ・劇遊び（言葉、仲間） ・リトミック（聴力、判断力、音感、数） ・てつぼう（運動） ・なわとび（運動、持久力） *小学校生活への移行（学校準備） <ul style="list-style-type: none"> ・プリントを配る ・プリントを集める ・手をあげて発表する ・友達の発表（意見）を聞く ・名前が書けるようになるなど
--

学校机を使い授業のシュミレーションも取り入れる

就学に向けて具体的な2歳児～6歳児の療育内容

発達バランスにばらつきがあり、また一人ひとりの状態も違うことから、就学に向けて早目に取り組んだほうが良いと考えられた場合、年齢の低い時期から遊びを通してステップアップをしながら文字や数に興味関心をもち、スムーズに就学できるような支援を考えている。

○基本的生活習慣

基本的生活習慣といえば、食事・排泄・身辺整理の項目が連想されがちだが、「アビリティ」では「話を聞く」「姿勢を整える」という分野も基本的生活習慣と捉え支援を行う。

【話を聞くこと】

- ・多種のカードやおもちゃ等を使い、簡単な指示内容を聞き取り、行動に移す課題に取り組んだり、聞き取りの課題に取り組む中で質問に答えたりする等の‘聞き取る力’‘聞こうとする力’を培うようにする。
- ・目を合わせ、姿勢を正す（整える）ことを確認した後、療育にとりかかる。

【待つこと】

- ・小集団ができるようになった際、小学校の机といすを用意した環境の中で、友達が発表し終わるのを待つことや、課題をやり終わるのを待つことの練習を取り入れる。と同時に、発表の際は、待ってもあててもらえない（発表できない）こともあるという体験を積む。

【姿勢を整えること】

- ・机上の課題に取り組む際に、足を置く位置や背筋の伸ばし方を確認してから取り組むようにする。また、運動系の活動時には、平衡感覚や姿勢維持の体操等を取り入れ、体幹を刺激し、維持しやすい体作りを目指す。

○自己表現

【自分の思いや感じたことを伝える】

- ・言葉を引き出しながら、言葉のモデルを提示することで、状況にあった使う言葉等を習得し、発言できるようにする。子どもからのアプローチを待ち、見守る援助も行う。
- ・一人ひとりの言語表現力を把握し、家庭、幼稚園（保育園）で現状としてどこまでの支援が必要なのかをお互いに共有する。

【正しい言葉を使う】

- ・文章の穴あき問題に取り組んだり、名詞から文章をつくる課題に取り組んだり、文章の復唱をしたりすることで文章構成や文章を話す練習を積むようにする。
- ・助詞を抜かした会話にならないようにする。

【決めることができない】

- ・個別や小集団の中で経験したことを思い出し、活動に取り組み、その中で次の行動（思い出したことを伝える、絵に描く）で表現する活動を多く取り入れ、自分で決めて次の行動（活動）に移る経験を積む。
- ・上記の活動の様子を見ながら家庭、幼稚園（保育園）と決める力がどの程度あるのかを把握し、どこまで支援することが必要か考える。